

1年生 児童 19名	平成26年11月28日(金) 1校時	会場 1年生教室
	≪国語科学習指導案≫ 場面の様子を思い浮かべて読む 『りすのわすれもの』	

学習指導要領解説から考える！

～本単元・本時の「内容・ねらい」について～

目標 (3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

内容 (2) 内容

- ① 「読むこと」指導事項ウ
場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- ② 「読むこと」言語活動例ア
本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。

物語などを読む場合には、時間や場所、状況などの設定、情景や場面の様子の変化、主人公などの登場人物、登場人物の性格や行動、会話及び心情の変化など、基本的な構成要素を理解していくことが必要である。低学年では、場面の様子と登場人物の行動を中心に取り上げている。『場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む』とは、物語の展開に即して、各場面の様子が変わったり、中心人物の行動が変わったりしていくことを把握した上で、その様子を豊かに想像しながら読むことを意味している。

今回の学習指導要領改訂から…

『実生活で生きて働く国語の力』を身につけさせることが求められている。そのために、単元で身につけさせたい力を明確にすること、その力を身につけさせるための単元を貫く言語活動を位置づけること、指導すべき内容の重点化を意識した授業づくりが求められている。

本時の教材分析

教材分析の“今回の切り込み口”

登場人物の行動に注目しながら、気持ちを想像して音読したり、動作化したりできるような授業

今回、〈めざす授業〉は…

目的意識

相手意識

「りすのわすれもの」をよみ、つづきのおはなしをかいて、
しょうかいしよう。

見通す

くま

くま

くるみのおじさんと、
さんた、たるすけは、
どんなかんけいかな。

さんた・たる
すけはどんな
りすかな。

りすのわす
れものって
なにかな。

『くるみとりすが
なかよし』ってどう
いうことかな。

くるみのおじさん
は、どんなふう
に
生まれたのかな。

1の場面と4の場面では、さんたのきもちはどうかわったかな

登場人物のしたこと、言ったことに注目して読み、気持ちや様子のわかる言葉を見つけ、気持ちを想像して書いたり、音読したりしよう。

「おなじ」と「ちがいを
みつけよう

たるすけのしたことは
どんなことかな

ぼくのうめたくるみからめ
が出ていたよ！うれしい！

たるすけさんのおかげで、ぼくがくる
みをたべられてたんだ。ということは、
ぼくのくるみも木になったら…。

〈核となるキーワード①〉
くるみのめがでてうれしいな。ぼくのひいひいひいまごにもくるみをたべさせてあげられるかもしれないぞ。

〈核となるキーワード②〉
たるすけさんと同じことをしちゃった。

〈児童の実態〉

《省略》

〈研究の視点〉

(1) 指導計画の工夫改善

本単元の物語には、生活科や読み聞かせなどで関連のある経験や知識が多く含まれている。そのため、児童の興味や意欲を高めるきっかけとして、他教科でも意図的に指導を行ってきた。

本単元では、初めから、最後に物語の続きを書いて読み合う活動を行うことを知らせ、学習全体に見通しを持たせて取り組む。各段落に名前をつけるため、「おなじこと」「ちがうこと」を探し、登場人物や言葉・出来事などに着目してくらべる力を高める。この活動から、時間の経過や登場人物の気持ちの変化が分かりやすいようにした。

また、誰の台詞かわかりやすいように、シールを貼ったり、登場人物の言ったことや、したことに注目して線を引いたりする。また、ペアで音読をしたり、考えたことを交流し合ったりする。こうした活動を生かし、登場人物の気持ちを想像して読んだり動作化したりする。

単元のいずれも、時間ごとのねらいを焦点化させて、内容を絞り込んで指導するようにしたい。

(2) 伝え合い、深め合う場の設定

主に、登場人物の様子やしたことを見つける学習を通して、書かれていることを元に登場人物の気持ちを想像し、ペアで友達と伝え合う場を設けた。

この活動で相手の考えに触れ、考えの類似点や相違点に気がついたり、新しい考えに気がついたりするなど、想像がふくらむようにした。また、ペア学習で音読したり、書いたものを読みあたりする時間を取り入れ、目の前の相手にわかるように話す力を高めることにした。その際は、話すときの約束・聞くときの約束を確認し、内容が伝わること、友達と伝え合うことの楽しさやおもしろさを実感させたい。

登場人物の気持ちを想像して読む場面では、全体交流を取り入れ、全員で登場人物の気持ちを想像し、深めるように設定した。児童の間だけでなく、教師からも質問などをして詳しく説明させたりして、想像を深めたりできるよう関わっていきたい。

〈単元の目標〉

- 読み聞かせや一人読みをもとに、物語の楽しさを感じ、面白いところを音読したり紹介しあったりしようとする。【関心・意欲・態度】
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像しながら読む。【読むこと】
- 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づく。【言語についての知識】

0	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本「いのちのまつり」を読み聞かせ、命のつながりへの気づきを誘う。 ・生活科「おおきなあれ」で、育てたあさがおの世話や種とりを通して、一定の期間をおいて繰返し種や木の実のは作られることや、種は赤ちゃんのような命の粒だということを理解する。 ・生活科「あきとなかよし」でドングリを拾った経験や芽が出たドングリを見た経験から、樹木も毎年、繰返し種を作っていることに気づく。 ・切り株の年輪を見た経験から、樹木の命は何年も続くということを知る。
1	<p>「りすのわすれもの」をよみ、つづきのおはなしをわいて、よみあおう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名から自分のわすれものについて考え、話し合う。 ・全文を読み、気に入った場面やおもしろいと感じたことを見つけ、線を引く。 ・登場人物の気持ちになって、好きな場面や台詞を声に出して読む。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物のしたこと注目して、挿絵を見ながら4つの場面に分ける。 ・段落の違い探しをして、2・3場面がくるみのおじさんの話した、過去の話だと知る。 ・誰の台詞かわかるように、登場人物に合わせて台詞に色シールをはる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・一の場面から、くるみのおじさんの前にいる「さんた」の気持ちを読み取る。（表情シールを貼る） ・ペープサートを使うなどして、動作化したり音読したりする。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・二・三の場面から、「たろすけのようす」「たろすけのしたこと」を見つけ、本文に線を引く。 ・くるみのおじさんの話に対する「さんた」の気持ちを読み取る。
5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・四の場面から、くるみの芽のまわりを踊っている「さんた」のしたことや言ったことを見つけ、気持ちを読み取る。（表情シールを貼る） ・ペアで読み合う。 ・動作化したり、音読したりする。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・その後の「さんたの話」「くるみのめの話」などの続きを想像して書き、紹介し合う。 ・ペアや全体で読みあい、感想を持つ。

<本時の目標>

くるみのおじさんのお話を元に、芽の周りを踊っていた「さんた」の気持ちを想像して書き、声に出して読んだり動作化したりしている。

<核となるキーワード>

- ① **くるみのめがでて、うれしいな。**
- ② **たろすけさんとおなじことをしちゃった。ぼくのひいひいひいひいまごにもくるみをたべさせてあげられるかもれないぞ。**

<本時の展開>(5/6)

	子どもの学習活動・意識	教師のかかわり (評価・留意点)
とらえる 考える えらる	<p>前時に学習した「たろすけのわすれものはなんだったのか」について確認する。 本時では、「おじさんのお話を聞いた後のさんたのこと」を学習することを確認する。</p> <p>1 本時の課題をとらえる。(5分)</p> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold; color: white;"> めをみつけた「さんた」のきもちをそうぞうして、しょうかいし合おう！ </div> <p>2 4の場面のさんたの気持ちを想像しながら音読する。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> さんたはおどりながらくるくるまわっているよ。気持ちはずきと…。 </div> <div style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold; color: blue;">見通す</div> <p>めさす子ども像</p> <p>3 めをみつけた「さんた」の気持ちが想像できるところ(したことや言ったこと)を見つけ、サイドラインを引き、表情シールを貼り、ペアで交流する。(5分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> びっくりしたかおだとおもうよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> うれしいかおじゃないかな。 </div> </div> <div style="border: 2px dashed pink; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><サイドラインを引くと予想される部分と表情シール></p> <p>①「わあ、すごい。」→驚いた顔、喜んだ顔の表情シール</p> <p>②「ぼく、しらないうちに、こんないいことしちゃったんだなあ。」→喜んだ顔の表情シール</p> <p>③手をたたいて、くるみの芽のまわりをくるくるおどりました。→嬉しい・楽しい顔の表情シール</p> </div> <p>4 どの表情シールを貼ったのか、全体で確認し、想像した気持ちごとに台詞を音読したり、動作化したりする。(10分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> とびあがっていったかも。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> 手をたたいてくるくるまわっていたよ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> どのくらいのうれしさなのかな </div> </div>	<p>・たろすけのめが言ったことを掲示し、それがくるみのおじさんであることを確認する。</p> <p>・本時の課題を意識しながら音読するように伝える。</p> <p>・おおまかな場面の内容を確認する。</p> <p>・たろすけのめが言ったこと、さんたのめが言ったことを比較して掲示する。</p> <p>・本文に書いてある言葉や挿絵から、表情を想像しシールを貼り、できたら、ペア交流をすることを伝える。</p> <p>・ペア交流の話し方・聞き方を確かめ、結果が違っていてもよいことを伝える。</p> <p>・机間巡視をし、ペア交流が成立していないペアの支援に入る。</p> <p>・「さんた」は、どんな顔をしているか、表情シールの気持ちになりきって音読させ、読みを交流させる。</p> <p>・さんたの気持ちが分かる読み方かどうか、聞いている児童にどうだったか聞く。</p> <p>・よかった点を具体的に褒め、気持ちが想像しやすいようにする。</p>

5 めのまわりをおどる「さんた」の気持ちを、1の場面のさんたの気持ちなどと比べながら想像して書き、ペア交流の後、全体交流をする。(15分)

くらべる

めざす子ども像

1 場面の時は、たろすけさんがうめたくるみがくるみのおじいさんになって、しらなかったよ。

くるみのめが知っていることが、にているよね。

もっとくるみがたべられるかも!

わすれものにもいいものがあるなんて、びっくりしたな。

くるみをもらってばかりだと思ったけど、りすがうめだから、くるみのきはできたんだね。だから、ぼくはくるみをたべられるんだな。

くるみのめが出て、いいことできて、うれしいな。

〈核となるキーワード①〉
くるみのめがでてうれしいな。

たろすけさんと同じことをしちゃったんだね。ぼくがうめだから、めが出たんだな。

〈核となるキーワード②〉
たろすけさんと同じことをしちゃった。
ぼくのひいひいひいひいまごにもたべさせられるかもしれないぞ。

『こんな言葉が出てくる交流に』
くるみの木がくるみをくれて、りすがくるみをうめてあげて、たすけあっているからなかよしなんだね。めがでて、うれしいな。いいことできてうれしいな。

『こんな言葉が出てくる交流に+ (プラス)』
たろすけさんとぼくもおなじことをしちゃったんだな!もしかしたら、ぼくのひいひいひいまごにもたべさせられるかもしれないぞ。すごいぞ。うれしいな。

学びを広げている姿・深めている姿

・「さんた」になったつもりで、どんなことを言いながらおどっているのかを書くように伝える。

・書くことが難しい児童には、挿絵の表情に注目させ、どんな気持ちなのか書くように伝える。

・ペア交流の話し方・聞き方の約束を確かめ、考えを伝え合うことの楽しさを味わえるようにする。

《評価》
くるみのおじいさんのお話をもとに、芽の周りをおどっていたさんたの気持ちを想像して書き、声に出して読んだり、動作化したりしている。(行動・発言・ワークシート)

・発言を板書しながら、児童に返したり、質問したりして、伝えたいことが詳しくなるようにする。

6 次時の予告 (5分)

次の時間は、お話の続きを書いて読み合うことを知る。

・さんたの気持ちが想像できたか、問いかけて振り返る。

〈板書計画〉

